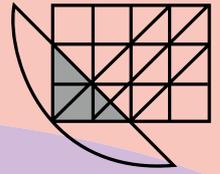


# 博物館だより



和歌山県立博物館  
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.23  
2018.3

## 西行

西行法師生誕九〇〇年記念 特別展

— 紀州に生まれ、紀州をめぐる —

## 開催

### 西行 生誕九〇〇年

平成三〇年（二〇一八）は、西行（西行法師・西行上人）が生まれてから九〇〇年の記念の年にあたります。紀州と非常にゆかりが深い西行の生誕九〇〇年を記念して、和歌山県立博物館では、今秋（一〇月一三日（土）～十一月二五日（日））に特別展「西行―紀州に生まれ、紀州をめぐる―」を開催する予定にしています。紀州（和歌山県）が育んだ歌人西行にまつわる、書・和歌・肖像・絵巻などの文化財を一堂に集め、

紀州に残した足跡とともに、西行の事績を振り返る機会にしたいと思います。

### 西行の故郷

平安時代の歌人西行は、元永元年（一一一八）紀伊国田中荘（和歌山県紀の川市）の佐藤氏一族の家に生まれました。西行自身が紀州田中荘出身だと語る直接的な資料はありませんが、西行の祖父の季清は那賀郡に巨大な寺院を造立し、また弟の仲清、甥の能清は田中荘・池田荘で武士としての活動がみられるなど、佐藤氏一族は明らかに紀州那賀郡、なかでも田中荘・池田荘を基盤として活動していたことは間違いないとされています。そして、藤原頼長をして、西行は「家富み」（西行の家は豊かであった）と言わしめた（「台記」）、西行のバックボーンとしての紀州那賀郡はどのようなものだったのでしょうか？ 地元に残る文化財から探ってみました。



西行法師像 伝文覚上人作（弘川寺蔵）

族は明らかに紀州那賀郡、なかでも田中荘・池田荘を基盤として活動していたことは間違いないとされています。そして、藤原頼長をして、西行は「家富み」（西行の家は豊かであった）と言わしめた（「台記」）、西行のバックボーンとしての紀州那賀郡はどのようなものだったのでしょうか？ 地元に残る文化財から探ってみました。



西行物語絵巻（館蔵） 八上王子を訪れた西行

### 西行 紀州をめぐる

西行は、出家前は佐藤義清という名前で、京都で院北面の武士として活動していました。二三歳のあるとき、世の無常を感じ、出家して西行と名乗ります。その後、高野山・天野（高野町・かつらぎ町）で約三〇年間におよぶ隠遁生活を送るなど、高野山周辺で多くの時間を過ごしました。

また、その間に全国各地（四国・関東地方・東北地方など）へ遊行の旅に出て、歌

を詠み残しています。西行が詠んだ和歌のうち、和歌山に関わるものは約八〇首あります。高野山や千里の浜（みなべ町）、八上王子・岩田（上富田町）、熊野三山（那智・新宮・雲取・七越峰など）のほか、吹上浜・和歌浦（和歌山市）、真国（紀美野町）、糸我山（有田市）、日高郡、白良浜（白浜町）などでも歌を詠み残しています（図）。西行の歌とともに、当時の紀州の風景を想像していただけたいと思います。

西行の生涯を描いた「西行物語絵巻」には、高野山、千里の浜、八上王子、那智の滝での様子が描かれています。展示では、様々な西行物語絵巻をご紹介します予定ですが、

### 高野から伊勢、そして弘川寺へ

西行は、出家後は主に高野山で暮らしていましたが、「高野山を住みうかれて（住みづらくなつて）」（千載和歌集）、伊勢に移り七年余を過ごしました。その後、鎌倉・奥州（東北）などを訪れ、晩年には河内国弘川寺（大阪府河南町）にとどまりました。そして、建久元年（一一九〇）に入滅します。「願はくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ」という歌はあまりに有名です。この特別展では、伊勢や河内（弘川寺）に関わる文化財も展示する予定にしています。西行の紀伊半島での足跡を辿ります。

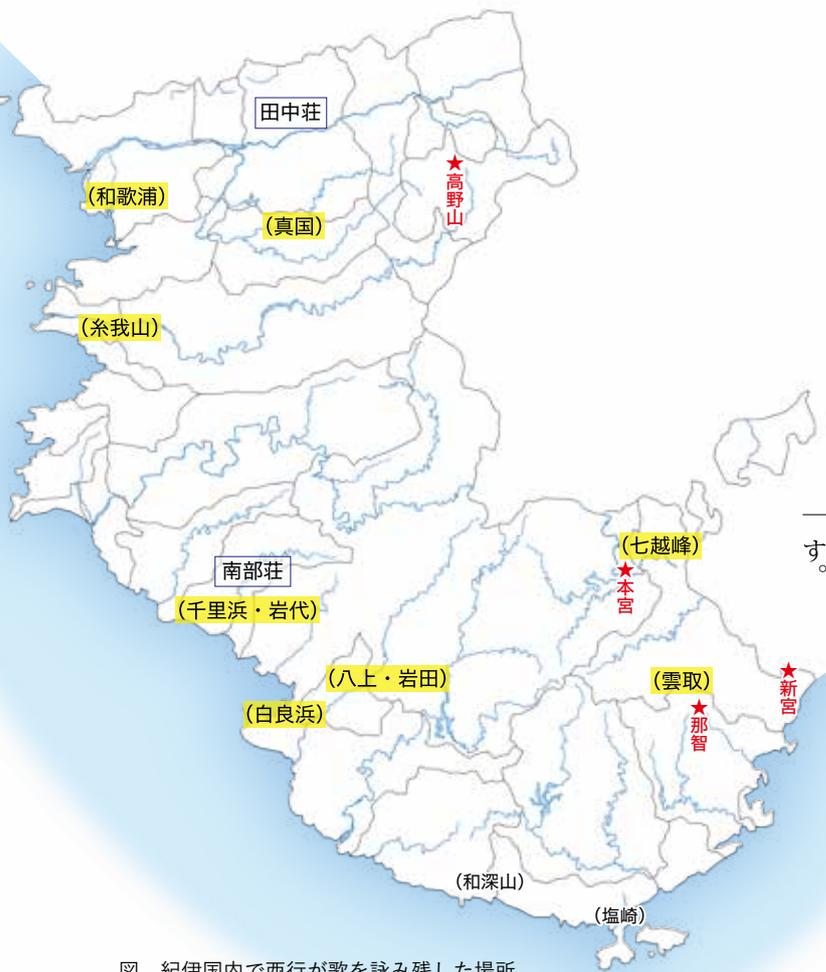
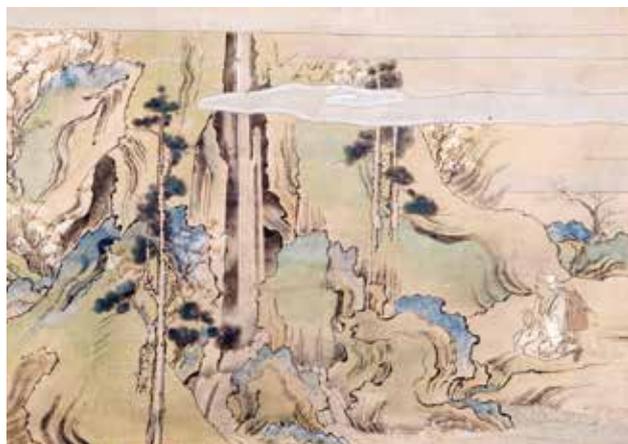


図 紀伊国内で西行が歌を詠み残した場所



西行物語絵巻（館蔵） 那智の滝を訪れた西行

### 西行の伝説

西行は、教科書などにも取り上げられるほどの有名人でありながら、謎に包まれ、また伝説の非常に多い人物です。特に弘川寺での入滅が西行の宿願を果たすように涅槃に入ったことや、新古今和歌集に歌が最も多く採用されたこと、またその生き様への憧れなど、死後すぐに伝説化されていきました。絵巻や説話、芸能（能・狂言）、各地に残る西行伝説、またそれを絵画化したものまで、様々な文化財が各地に残されています。後の時代において西行への敬慕、憧れなど興味が尽きなかったことを物語ります。西行の足跡とともに、西行伝承なども含め、後の時代に与えた影響についても、あわせて考える機会にしたいと思います。

### 西行の連続講座を開催

特別展会期中には、西行研究の第一人者たち（西行学会の会員）による連続講座、ならびに西行学会大会（記念講演・シンポジウム・研究発表）があります。展覧会とあわせてご参加いただけましたらと思います。

## 「西行 再発見!」、西行学会大会

（会場はいずれも和歌山県立近代美術館（博物館となり）2階ホール）

- 10月20日(土) **午後** 山口 眞琴氏（兵庫教育大学）「西行和歌の魅力」
- 10月27日(土) **午後** 西行学会 大会 【講演／座談講演】
- 10月28日(日) **終日** 西行学会 大会 【午前 研究発表／午後 シンポジウム】
- 11月 3日(土・祝) **午後** 松本 孝三氏（西行学会委員）「西行伝承のおもしろさ」
- 11月10日(土) **午後** 礪波 美和子氏（大和学園大学）「『撰集抄』の中の紀州譚」
- 11月17日(土) **午後** 阿部 泰郎氏（名古屋大学）・蔡 佩青氏（静岡英和学院大学）・近本 謙介氏（名古屋大学）・橋本 美香氏（川崎医科大学）

「西行物語絵巻の世界を読む」

【特別展イベント】  
連続講座

春特別展

紀伊徳川家 やきもの新時代

―富国と栄華の一九世紀―

四月二日(土)～六月三日(日)



偕楽園焼 交趾釉月梅図皿 永楽保全作 (滴翠美術館蔵) 文政10年 (1827)

一九世紀初頭から明治一〇年(一八七七)頃にかけての約八〇年間、紀州(現在の和歌山県と三重県の一部)では、富国政策の一環として、陶磁器生産が盛んに行われました。数量、デザインともに多くの製品が作られ、なかでも「紀州三大窯」として知られる偕楽園焼、瑞芝焼、南紀男山焼では数々の名品が生み出されました。

や、鮮烈な紫と浅葱色に彩られた交趾写の磁器が特徴的です。全国の御庭焼の中でも特に有名で、明治時代には外国での人気も高く、模造品が盛んに輸出されたほどでした。瑞芝焼は、紀州では最も長く操業した民営の窯で、質の高い青磁を得意としました。南紀男山焼は、藩の主導で経営した大規模な窯で、白地に青の染付を中心とした陶磁器を大量に生産しました。陶磁器製作の指導には、楽且入(一七九五～一八五四)、永楽保全(一七九五～一八五四)、仁阿弥道八(一七八三～一八五五)など京都の著名な陶工を招き、藩内でも、光川亭仙馬などの名工が登場しました。多くの人が関わり生まれた華やかなやきものは、紀州の繁栄と文化の爛熟を如実に伝えています。



南紀男山焼 染付葵文散火鉢 (長保寺蔵) 文政12年 (1829)



瑞芝焼 青磁薔薇蝶文花生 (個人蔵)



清寧軒焼 赤染茶碗 銘「福祿寿」(館蔵) 天保15年 (弘化元年、1834)

この展覧会では、そのなかでも制作年が判明する作品を集めることで、刻々と変化する意匠の歴史や同時期の窯同士をつながり、時代の移り変わりがわかる展示となるよう努めています。当館でのやきものをテーマにした特別展は、二三年ぶりの開催です。展覧会図録も発行しますので、どうぞお楽しみに。

コーナー展示

南葵音楽文庫の貴重資料

四月一日～三月三十一日(連続二回)

県立博物館には、紀伊徳川家一六代当主・頼貞(一八九二～一九五四)が収集した西洋の楽譜のコレクション・南葵音楽文庫の貴重な資料が九八件寄託されています(読売日本交響楽団所蔵)。今年度は、月替わりでそれらの中から数点ずつ選んで、二階の文化財情報コーナーで展示します。



インキユナブラ (読売日本交響楽団蔵)

企画展	企画展	企画展	西行法師 生誕900年 記念特別展	企画展	夏休み企画展	企画展	特別展	企画展	常設展
<b>国宝・古神宝の世界</b> —熊野速玉大社の名宝— 3月9日(土)～ 4月21日(日)	<b>徳川治宝が生きた時代</b> 1月26日(土)～ 3月3日(日)	<b>熊野と和歌浦</b> —きのくにの名所をたずねて— 12月8日(土)～ 1月20日(日)	<b>西行</b> —紀州に生まれ、 紀州をめぐる— 10月13日(土)～ 11月25日(日)	<b>和歌山の文化財を守る</b> 9月1日(土)～ 10月4日(木)	<b>城下町和歌山を歩こう</b> 7月14日(土)～ 8月26日(日)	<b>博物館でいきものめぐり</b> 6月9日(土)～ 7月8日(日)	<b>紀伊徳川家 やきもの新時代</b> —富国と栄華の二九世紀— 4月21日(土)～ 6月3日(日)	<b>きのくに 縁起絵巻の世界</b> —開かれる秘密の物語— 3月10日(土)～ 4月15日(日)	<b>きのくにの歩み</b> —人々の生活と文化— 4月1日(日)～ 10月4日(木) 12月8日(土)～ 3月31日(日)
<p>三万年にわたるきのくに—和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主題として、七つのコーナーに分けて、時代の順にわかりやすく展示します。各コーナーには、「さわれるレプリカ」があります。なお、特別展「西行」の開催期間中は、常設展示を行っておりません。</p> <p>寺社が造られた歴史やその霊験を文と絵であらわした縁起絵巻は、神仏の秘密の物語に接するためのマジカルアイテムです。和歌山県内に伝わる中世・近世にかけて作られた優れた縁起絵巻を公開しその魅力を紹介いたします。</p> <p>紀州での陶磁器(やきもの)生産は、江戸時代初期に始まり、一九世紀初頭から明治一〇年(一八七七)過ぎまでの約八〇年間に、最も盛んに行われました。紀州三大窯と称される偕楽園焼・瑞芝焼・南紀男山焼を中心に、一九世紀の紀州のやきものを紹介します。</p> <p>身近に生息する動物や植物は、しばしば絵画などの作品にも表されました。また、見られない生物に対する人びとの興味も深かったようです。江戸時代の紀州の絵画に表された、さまざまな動物のすがたをご覧ください。</p> <p>江戸時代、城下町和歌山は江戸・大坂・京都・名古屋・金沢・鹿児島・広島に次ぐ八番目の都市であったとされています。この企画展では、城下町に住んだ武士や町人たちの生活をわかりやすく紹介します。</p> <p>過疎化や高齢化によるコミュニティの縮小は、地域住民によって維持されてきた文化財の継承に大きな影響を及ぼしています。多発している文化財盗難とその対策など、和歌山の歴史遺産を守るための活動を紹介いたします。</p> <p>平安時代の歌人西行は、元永元年(一一一八)紀伊国田中荘の佐藤氏一族の家に生まれ、出家後、主に高野山・天野で隠遁生活を送りつつ、熊野なども訪れ、全国各地に遊行の旅に出て、歌を詠みました。紀州が生んだ歌人西行にまつわる文化財をその足跡とともに振り返ります。</p> <p>和歌山県を代表する景勝地の熊野と和歌浦は、それぞれ世界遺産・日本遺産に登録されていますが、古くから人びとがその風景に感動し、絵画作品などに表現しました。県立博物館の収蔵品を通じて、当時の人びとの思いに迫ります。</p> <p>紀伊藩一〇代藩主となった徳川治宝は、中・下級家臣を抜擢し、従来の家老らによる藩政の流れを変えようとするともに、文雅を楽しむ政策も行いました。この企画展では、残された資料から治宝の生きた時代を紹介いたします。</p> <p>熊野三山の一つとして古来信仰を集める熊野速玉大社には、天皇や室町将軍等によって奉納されたおよそ一〇〇〇点の「古神宝」が伝わります。神々に捧げられ、現在は国宝ともなっている古神宝をご覧ください。</p>									

**お知らせ**

◆主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドを用意しています(一般二〇〇円、高校生以下一〇〇円)。常設展については、上級コース・外国語版(英・中・韓)もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

**和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会**

企画展「産業と美術のあいだで 印刷術が拓いた楽園」  
会期：平成30年4月14日(土)～6月24日(日)

企画展「なつやすみの美術館8 タイムトラベル」  
会期：平成30年7月7日(土)～9月2日(日)

企画展「和歌山—日本 和歌山から近代・美術、そして近代美術館を見つめる」  
会期：平成30年9月8日(土)～10月20日(土)

特別展「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」  
会期：平成30年11月3日(土)～12月16日(日)

博物館の利用案内

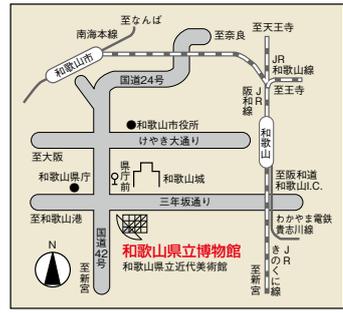
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) 駐車場

休館日 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末年始。展示替えにともなって臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

入館者	2時間まで	無 料
	以後30分ごと	100円

※大型バスでご利用の場合はお問い合わせ下さい。

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

入館料

〈常設展・企画展〉

	一般	大学生
個人	280円	170円
団体	220円	140円

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料です。  
※企画展示室の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

〈特別展 紀伊徳川家 やきもの新時代〉  
(常設展示も行っていません)

	一般	大学生
個人	510円	300円
団体	410円	250円

〈特別展 西行〉 (常設展示は行っていません)

	一般	大学生
個人	1,000円	800円
団体	800円	600円

まちなかの博物館・美術館をめぐる!

和歌山市内5館(和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、和歌山城天守閣、わかやま歴史館)の相互割引制度がありますので、是非ご利用ください。

**和歌山県立博物館 博物館だより 第23号**

編集 和歌山県立博物館

〒640-0813 和歌山市吹上二丁目4番14号  
TEL (073) 436-8670

<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

平成30年(2018)3月発行